

## は じ め に

富山大学ヘルン（小泉八雲）研究会の活動も 2 年目を迎え、例会で切磋琢磨しながら各自の研究を推進するほか、さまざまなラフカディオ・ハーン関連研究者をお招きして、講演会やシンポジウムも開催してまいりました。今年度の主な活動は以下の通りです。

2016 年 9 月 17 日（土）国際シンポジウム（於富山大学人文学部第 6 講義室）

「ラフカディオ・ハーン研究の新たな試み—ヨーロッパ・アメリカ・日本をつなぐもの—」

Some Lafcadio Hearn Materials from the University of Virginia

Rodger Williamson（北九州市立大学）

ハーンが教えたフランス文学

濱田 明（熊本大学）

マルティニックのラフカディオ・ハーン：イナ・セゼールによる再話文学

廣松 勲（法政大学）

ヘルン文庫書き込み調査からわかること—『ギリシア詞華集』を中心に—

中島 淑恵（富山大学）

2016 年 9 月 29 日（木）講演会（於富山大学人文学部第 6 講義室）

ラフカディオ・ハーンのアメリカー色・音・味覚のジャーナリズム—

難波江 仁美（神戸市外国語大学）

小泉八雲と日本の民話—口承と書承の不思議な交流—

遠田 勝（神戸大学）

2017 年 2 月 11 日（土）・12 日（日）ラフカディオ・ハーン研究シンポジウム

（於富山大学人文学部 3 階第 6 講義室）

1 日目

ハーンのニューオリンズ時代における日本との出会い—『日本の詩瞥見』をめぐって—

中島 淑恵（富山大学）

ハーン『チタ-最後の島の記憶』を読む—アイルランドと日本の交点としてのアメリカー—

結城 史郎（富山大学）

ことば、記憶、“Creolization”—前衛小説として読むハーンの『チタ』

難波江 仁美（神戸市外国語大学）

ハーンにおける「クレオール性」の再読解：イナ・セゼールを中心に

廣松 勲（法政大学）

ハーンにおける異質なるものの表象

長岡 真吾（島根大学）

【基調講演 1】多言語的なアメリカとハーン 西 成彦（立命館大学）

## 2 日目

シンシナティ時代におけるハーンの新聞記事について

水野 真理子（富山大学）

ハーンの弟子達のボードレール

小谷 瑛輔（富山大学）

小学校・中学校国語教科書における小泉八雲作品の行方

西田谷 洋（富山大学）

ハーン作品における『ひとりであること』について

池田 志郎（熊本大学）

ハーンの「柔術」

濱田 明（熊本大学）

【基調講演 2】 ハーンの言語観と英語教育 西川 盛雄（熊本大学名誉教授）

シンポジウム参加者は 100 名を超え、富山県内だけでなく各地から研究者の方々や学生・院生の聴講があり、私たちの活動も拙いながらハーン研究の一拠点として社会的認知を得つつあるのではないかと思います。とりわけ今回のシンポジウムでは、立命館大学の西成彦先生から、世界文学の観点からハーン研究を俯瞰する重要性を再認識するご講演を賜り、一度始めたことは 10 年続けなさいという激励を頂戴しました。会のメンバー一同、このことを胸に刻み、気を引き締めて今後の活動に邁進したいと考えております。また、熊本大学からは名誉教授の西川盛雄先生にご講演いただいたほか、池田志郎先生、濱田明先生から貴重なお話をいただきました。今年はぜひかの地の震災復興を願って、熊本の研究者の皆様をお呼びしたいという私たちの願いを形にすることができたことも、嬉しい成果の一つかと存じます。また、熊本以外にも、ハーンゆかりの地である神戸・島根・東京から研究者をお招きし、さまざまな意見交換ができたことも、今後の研究活動活性化のための重要な布石であったと自負しております。

本論集は、これら今年度の研究成果をまとめたものです。恒常的かつ安定的な予算措置が望めない中、本年度も学長裁量経費の配分を受け、また科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究 16K13215）の交付も受けることができましたこと、関係者各位に厚く御礼申し上げます。また、富山大学人文学部および富山大学附属図書館からも物心両面で多大なるご協力を賜りましたことも申し添えておきます。

文科系研究の危機が叫ばれる中、こうして研究成果を積み重ねて行けることは幸運なことであると同時に、研究者たるものの義務でもあると私たちは考えております。富山にハーン研究の一大拠点あり、と世に知らしめす日まで、ひたすら精進して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

2017 年 3 月

富山大学ヘルン（小泉八雲）研究会メンバー一同